
中国情報（WTO/FTA・貿易・安全・その他）

2007年5月14日号

◎ 2007年3月油糧・食用油市場観測情報

【中国農業部】

中国農業部は先ごろ、2007年3月における油糧・食用油市場の観測情報について発表した。その概要は以下のとおりである。

1 長雨低温がアブラナの開花・結莢に影響

3月上・中旬は二度にわたって広範な寒気に覆われ、長江（揚子江）中・下流域のアブラナの主産地では冷害が発生した。降り続く長雨で日照が少なく、土壌が過剰な水分を含んだことなどがアブラナの開花や結莢に悪影響となった上、病虫害の発生を誘引した。

一方、西南地区は早ばつで、アブラナの開花に影響を及ぼした。

2 油糧・食用油は輸出入とも増加

海関統計によると、1～2月における油糧の累計輸入量は、前年同期比22.1%増の373.4万トンとなった。そのうち大豆は同28.5%増の360.9万トン、菜種は同44.2%減の9.1万トンであった。同じく油糧の累計輸出量は、同51.1%増の24.8万トンで、うち落花生は18.6%減の1.5万トン、大豆は同9.6%減の7.6万トンであった。

1～2月の食用植物油の累計輸入量は、前年比5.8%増の117.7万トンとなった。そのうちパーム油は同29.5%増の73.7万トン、大豆油は同19.3%増の36.4万トン、菜種油は同766倍の5.4万トンであった。同じく食用植物油の累計輸出量は、同1.2倍の4.2万トンとなった。

中国の植物油輸入の増加主要因は、国内価格が国際価格を上回り、業者が海外から大量に買い付けたためである。昨年第4四半期から今年1～2月まで、国内の植物油価格が一貫して国際市場価格を上回り、春節（旧正月）後に国内価格が若干下落したものの、依然として国際市場価格を上回っていることから、国内の大豆油生産コストが比較的高水準に

あり、価格で競争するという状況にはない。また、国内需要の引きが強く、国内供給を満足できず、輸入に頼らざるを得ないという状況も、植物油輸入の大幅増の一因となっている。

3 2006/07年度は国内の油糧・食用油供給を充足

2006/07年度（2006年6月～2007年5月）の大豆輸入量は引き続き増加するとともに、収穫による新たな供給量（新增供給量）も増加することから、総消費量は引き続き増加するものの、大豆の供給には十分な余裕があると予測されている。

大豆油については、国内の搾油量増加に伴う新增供給量が増加し、輸入量は減少する一方、消費量が引き続き増加して新增供給量を上回るため、期末在庫は減少し、供給過剰という局面は緩和するとみられている。

大豆粕については、新增供給量が増加する一方、消費量も引き続き増加して新增供給量を上回るため、期末在庫は減少するとみられている。ただし、在庫／消費比は依然として高水準にあり、供給には余裕がある見込みである。

4 2006/07年度の世界の油糧・食用油生産量及び消費量はともに増加

米国農務省（USDA）が3月に発表した予測によると、2006/07年度（2006年10月～2007年9月）の世界の油糧生産量は、前年度比2.84%増の3.991億トンと見込まれている。そのうち大豆、綿実及びヒマワリ種子はそれぞれ5.3%増、2.8%増及び3%増、菜種および落花生はそれぞれ3.5%減及び4.6%減とみられている。

2006/07年度の世界の油糧圧搾量は、同4.5%増の3.315億トン、貿易量は同8%増の8,200万トンと見込まれている。また、同じく油糧の期末在庫は同3.6%増の6,399万トンと見込まれ、そのうち大豆在庫量は9.9%増、菜種在庫量は44.2%減とみられている。

同じく世界の植物油生産量は、同5.4%増の1.243億トン、植物油消費量は同6%増の1.225億トン、植物油貿易量は同4.5%増の4,700万トン前後、期末在庫は前年度同水準の916万トンと見込まれている。

5 国内油糧価格は堅調、食用油価格は高水準で推移

現在、国内の油糧市場はオフ・シーズンにあり、国産菜種は基本的に市場には出回っておらず、搾油用落花生の供給にも限りがあり、油糧全体の価格は堅調である。第1四半期の国内の食用油需要が好転し、各種食用油の価格は昨年末の高水準から反落した後、国際市場価格の起伏に則して変動するようになった。3月は輸入品の未精製大豆油やパーム湯が大量に到着して価格が下落したものの、全体的な価格水準は、前年同月を大幅に上回った。

【菜種】5月の初物の販売前は、菜種の流通量が非常に少なく、現在の販売価格は、前

年同月比30%高の1トン当たり3,000~3,300元前後と見積もられている。

【落花生】現在、主産地における落花生供給は逼迫している状況にあり、落花生および落花生粕は高水準を維持している。3月の鄭州市（河南省の省都）における食糧卸売市場の2級落花生の卸売価格は1トン当たり7,200円で、前月比3%高、前年同月比26%高となった。

【大豆油】3月末における山東省の4級大豆油の工場出荷価格は1トン当たり6,950元、黒龍江省は7,000元、浙江省は6,950元となり、前年同期に比べ平均38%高となった。

【菜種油】3月21日における四川省の4級菜種油の工場出荷価格は1トン当たり7,900元、湖北省は7,400元、江蘇省は7,450元、安徽省は7,450元となり、前年同期に比べ平均46%高となった。

【落花生油】落花生油市場はいまだ強含みで、高価格を維持している。3月下旬の福建省廈門（アモイ）市における2級落花生油の卸売価格は1トン当たり11,600元、江蘇省新沂市（江蘇省徐州市内の県級市）は9,800元となり、前月同期比で若干の下落、前年同期比ではそれぞれ18%高、2%高となった。

【パーム油】3月は為替レートが強含みで、大豆油の先物価格が上昇したことがパーム油の国際市場価格に影響し、国内のパーム市場価格は国際価格に応じて上昇した。3月29日における天津港のパーム油（融点24℃）価格は1トン当たり6,200元、広東省は6,100元となり、前年同期に比べ平均44%高となった。

6 国際油糧・食用油価格は高水準で推移

第1四半期の国際市場における大豆油の先物価格は高水準で小幅変動し、全体的に上昇傾向にあった。第1四半期の国際市場における食用油価格は、総体として前年同期比45%前後高となった。3月下旬における4月出航予定のカナダ発中国向け菜種のCNF価格（C&F価格、1990年の国際商業用語改正後はCFR価格：運賃込み価格＝FOB価格＋運賃）は1トン当たり390ドルで、前月同期比3%高、前年同期比48%となった。南米の未精製大豆油価格は同692ドルで、前月同期に比べ若干の下落、前年同期比では41%高となった。米国の2号黄大豆価格は同341ドルで、前月同期比2%高、前年同期比9%高となった。また、マレーシアのパーム油（融点24℃）価格は同626ドルで、前月同期比4%高、前年同期比45%高となった。